1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300453				
法人名	相清福祉会				
事業所名	グループホーム希望(のぞみ)の里				
所在地	山口市鋳銭司12361-3				
自己評価作成日	令和 6 年 12 月 27 日 評価結果市町村受理日				

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

残存機能を落とさない様に家事仕事(生活リハビリ)を通しながら体を動かし、また意欲を高める様にしています。掃除は体力的に難しいので毎食時の盛り付け作業や食器洗い、洗濯物干し・たたみ等を行って貰う様にしています。毎日の日課として午前中は体操を行い、午後からはレクリエーション(主に脳トレ)を行って充実した生活が送れる様にしています。また気分転換の一環として外出援助を多く取り入れています。全体での外出は月1回程度ですが、ドライブ外出は月に2~3回程度行い精神安定にも取り組んでいます。職員間での共通意識を持たせる為に月1回職員ミーティングを行い、様々な意見の場として活用している。勉強会(10分程度)もミーティング時に取り入れています。家族への報告として毎月「ご家族様便り」と「グループホーム便り」を発行し、各利用者の状態及び状況を報告しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県北区岩井2丁目2一18
訪問調査日	令和 7 年 1 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

元々は助産施設として始まり、2000年に山口県第1号の施設として誕生した。母体が病院の施設なので、医療連携が取れていて、ちょっとした体調の変化や夜間時にも迅速に対応して頂けるので心強く、特養も併設されているので、スムーズな移動も可能である。管理者は毎月、家族便りを配布して利用者の様子を細かく伝えている。現在7名の職員が働いていて、報連相を徹底して、情報共有をしている。薬、レクリエーション、整理整頓といった職員の得意分野を活かせるように工夫している。リビングでは、利用者同士の会話で笑い声が溢れていて、編み物や雑誌を読んでゆっくり自分の時間を過ごしている姿も窺えた。レクリエーション活動の一環として、職員が手作りした人生ゲームが白熱し、利用者全員で盛り上がっている姿を目の当たりにした。外出支援も多く、市街のドライブをはじめ、美祢のカルスト地形、宇部の常盤公園、宇部空港のバラ園に出掛け、写真からも穏やかな笑顔の様子が見れた。管理者や職員は、これからも常に笑い声で溢れる施設であり、利用者には表情豊かに暮らしてほしいとの思いで介護に従事していた。

自己評価および外部評価結果

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .3		○基づく運営 ○理念の共有と実践		法人理念とグループホーム理念を玄関先の目の 触れるところに掲示している。ミーティングの際	
			棟内に、法人理念とグループホーム理念を掲載しており、常日頃から確認が出来る様になっている 為、実践に繋げている。	に、職員間で確認している。勤続年数の長い職員が多く、理念は浸透している。「その人らしい生活リズムで、出来ることは自分で行い、心豊かに楽しく過ごす」をモットーに日々の介護に従事している。	
2	(2)	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	年1回、地域での防災避難訓練にご利用者様を連れて参加し地域の方々との交流を図っている。	町内会には法人で加入していて、地域の情報を 共有している。法人で、中学校の職場体験の受け 入れをしている。梅ちゃんクラブでは、寸劇を行 い、認知症を知って頂く機会を設けている。福祉 専門学校の実習生の受け入れも継続している。 今年度から地域と連携して防災訓練にも参加で きた。	
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	地域連携室と連携しながら認知症カフェに参加して、地域の方々に認知症の理解や支援方法を伝えている。		
4			自己評価及び外部評価の結果表を玄関先に置き、誰でも閲覧出来る様にしている。改善に向けては月1度のミーティングで話し合いを持ち、取り組む様にしている。	評価をするにあたり、管理者と職員が話し合い、 理念や生活に関する項目については、職員が中 心となって作成した。前回の評価結果を参考にし て、今回の評価表に取り入れている。他のグルー プホームとの交流もあり、情報共有をして評価に 活かせるように取り組んでいる。	
5		いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、市の職員、他施設の管理者及び計画 作成担当者に参加して頂き、サービスの実情を伝え、様々な意見や他施設での取り組み状況を聞き ながらサービスの向上に繋げる様にしている。	対面で実施している。地域の民生委員、介護保 険課、他のグループホームの職員、家族代表、利 用者、法人内からは施設長か副施設長が参加し ている。入居者状況、活動内容、今後の予定、事 故・ヒヤリハット報告を行い、行事の写真も添付し ている。参加者全員から必ず意見を言って頂くよ うに工夫している。	
6		所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より市に出向いて連絡や相談をしている。2ヶ月に1度の運営推進会議に参加して頂きながら、 実情やケアサービスの取り組みを伝え助言を頂き ながら協力関係を維持している。	市町村との窓口は管理者が担っていて、窓口へは足を運ぶ機会が多い。介護保険課では、利用者の状況確認や相談をしている。地域包括支援センターとは、入居待ちの情報を共有している。研修案内はメールで連絡が来ている。	

自	外		自己評価	外部評価	ш
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は敷地内の口で玄関寺施錠をせず、いっても出入りが可能な状況となっている。夜間のみ施錠をする様にしている。身体拘束は絶対に行わない様に関うしている。法人研検に関する。	毎月、法人全体で委員会を開催している。各部署で起きた事故・ヒヤリハットの確認をしている。身体拘束の研修は、動画視聴と資料を用いて行った。身体拘束につながる理由、やむを得ない拘束について学びを深めた。玄関の施錠は日中はしておらず、見守り体制を敷いている。	スピーチロックについて再確認する場を 設けてみてはどうでしょうか。
8		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年1回法人の研修や職員間ミーティングにて学んでいる。事業所内での虐待が早期に発見出来る様に監視カメラを各廊下に設置している。		
9		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう 支援している	年1回法人の研修にて学んでいる。必要がある場合は話し合いをする予定。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	締結や解約時は十分に説明を行い、納得して理解 して貰っている。利用者や家族から不安点や疑問 点がでれば真摯に受け止め不安解消に努めてい る。		
11		〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	いるが、相談や苦情の受付は電話対応で行う様にしている。管理者が対応し処理を進める形としているが、現れば苦味などは無い、担談は歴味行って	面会や運営推進会議に来られた際に意見を聴取している。受診結果報告や物品購入の際には、電話にて連絡している。家族から冬用ズボンに関する相談を受け、職員間で対応した。家族から、きんつばやせんべいの差し入れがあり、利用者は大いに喜んだ。	
12		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃のコミュニケーション時に意見や提案を聞き、ミーティング時や申し送りノートを活用しながら 全職員の意見を反映する様にしている。	月1回のミーティング時に意見を聴取している。直近では、大掃除の進捗状況、昼食会の食事形態、接遇について話し合った。ケアカンファレンスでは、利用者の状況を確認している。職員間の仲も良く、日頃の業務から意見が飛び交っている。申し送りノートや通院ノートを活用して、情報共有をしている。	

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			3月に各自自己評価表を作成して貰い、現場の管理者も職員個々の人事考課表を作成し、代表者に提出している。労働時間や条件などは管理者を通じて人事部に相談し整備に努めている。		
14		進めている	プの相川医院から院長(理事長)や看護師長から 研修を受ける体制になっている。研修も強制では なく任意となっている。外部研修も行っている。	管理者は、職員が働きやすい職場環境となるように努めている。ケアの方法や情報共有をして、業務改善を行っている。また、職員一人ひとりの能力や状況に応じて、職員の業務を振り分けている。法人内では、職員研修もあり、必要に応じて参加している。	
15		く取り組みをしている 	令和5年度から他施設の運営推進会議に参加させて貰ったり(学識有識者として)、当グループホームの運営推進会議に参加して頂いたりして、同業者と交流を深めている。お互いの良い所を言い合いサービス向上に努めている。リモート研修も年に数回ある為その際は参加している。		
II . 2					
17					
18			問題点を洗い出して支援の見極めを図り、まず改善出来る事から行う様にしている。他のサービス利用(福祉用具など)も含めた対応を行っている。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19			生活リハビリ(家事仕事など)を通して出来る事は 行って貰う様にして、支援が必要な部分は援助し ながら関係作りに努めている。		
20		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	毎月ご家族様便り(1ヶ月の様子を文章で発行)を 発行し、また必要に応じて様子を電話連絡して家 族との関係性を図る様にしている。電話連絡をす る際はご本人にも出て貰う様にして、絆を大切にし ている。		
21	` '	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ外出をした際に自宅周辺を訪れたり、馴染みのある場所に出向いたりしている。自宅外出も行っており、その際に近所の知人にも会っている。 馴染みの美容院(理髪店)を利用している。	面会や運営推進会議に来られた際に顔を合わせる機会がある。家族の方が、親友や元部下の方を連れてきて、昔話に花が咲いた。親友が個展を開催していると聞き、今度行く予定である。利用者の家族同士が会社の知り合いで、家族間で話が盛り上がった。お墓参りに出掛けて、昔馴染みの風景を堪能した。	
22		な支援に努めている	生活リハビリ(家事仕事など)を通じて、利用者同士で一緒に行う事により協調性が出る様に支援している。毎月の行事も全利用者が参加出来る様にしている。		
23		の経過をフォローし、相談や支援に努めている	られる為、相談員を通じて関係性は続く様にしている。相談等があった場合は支援に努める様にしている。また、ご逝去された時は自宅に出向きお焼香を上げさせて貰っている。		
Ш.	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン			
24					

自	外		自己評価	外部評価	ш
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	契約の段階から生活歴や生活環境など家族から 聞き出し把握に努めている。今までの自宅生活に 近い形になる様に配慮している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	過ごし方は人それぞれあるので生活スタイルを大事にしている。散歩や体操等のレクリエーション時には声を掛けて誘う様にしている。生活リハビリ(家事仕事など)が出来る方は残存機能を活かせる様にして現状の把握に努めている。起床時間が遅い方には本人にあった時間帯で起床の声掛けをしている。		
27		〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	本人から希望や要望を反映出来る様に担当職員が聞き出し、また課題を分析してミーティング時にカンファレンスを行い、介護計画を作成している。 作成後は家族に説明・同意を得ている。	入居時に担当職員がアセスメントを実施している。介護計画は、入居時に暫定プランを作成して、何もなければ6ヶ月毎に見直している。担当職員が中心となり、カンファレンスで話し合い、最終チェックはケアマネジャーが行っている。介護支援経過にて記録し、3ヶ月毎にモニタリングシートを作成している。	
28		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている			
29		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に生まれるニーズ(課題)に対応する様にしている。課題ばかりでは無く、その方の長所を生かせる様な支援を提供している。またサービスの多様化にも取り組んでいる。		
30		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用したり、月に2回以上はドライブ外出をして、心身ともにリフレッシュになる様に支援している。外食援助も取り組み、日頃食べられない物や希望に添った支援を行い、豊かな暮らしが出来る様にしている。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	1 5
ᄅ	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援し ている		母体の病院が協力医となっている。入居時に、家族や本人の同意を得て、転医して頂いている。医療加算を追加したことで、他の病院との連携もできるようになり、情報共有ができている。夜間でも迅速に対応して頂けるので、安心感に繋がっている。他科へは職員が連れて行き、歯科は月1回の往診がある。	
32		受けられるように支援している 	訪問看護と契約を結び、月4回来訪して貰っている。日常の情報や気付きを伝え相談している。また、薬の変更時は情報を共有している。緊急時の場合は連携が図れる体制となっている。		
33		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、又、できるだけ早期に退院できるように、病院 関係者との情報交換や相談に努めている。ある いは、そうした場合に備えて病院関係者との関係 づくりを行っている	入院になった際は関係病院との情報共有がスムーズに行える様に、サマリー(情報提供書)を作成し情報交換が出来る様に関係作りをしている。退院の目途が立った際は相談員(SW)と密に連携を図っている。協力医療機関連携加算を取っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業 所でできることを十分に説明しながら方針を共有 し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組ん でいる	家族交流会を実施しACP(家族会議)にて今後の 希望を聞いている。大半のご家族はグループホームの終末を希望されていない為、重度化した場合 は再度確認する様にしている。事業所で対応出来 る事も十分説明している。	入居時に「看取り介護についての同意書」にて説明し、終末期に差し掛かった際に、同意を得るようにしている。家族交流会では半数以上の家族が来られ、終末期医療について話し合いを行った。年1回、法人内で看取り研修を実施し、看護師指導の基、知識を深めることができた。	
		の状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	ヒヤリハット報告書を活用して未然に事故を防ぐようにしている。事故発生時は事故報告書の記入を行い、事故防止委員会にて毎月報告をしている。 AEDの使用方法や応急対応など、ミーティングや法人内研修で訓練を行い、実践力を身につけている。離苑防止の為玄関にセンサーの設置を行った。	毎月、事故・ヒヤリハット報告を行い、法人全体で情報共有をしている。AEDを実際に使用して、心肺蘇生の訓練も行った。突発的な事故や転倒に加え、新型コロナやインフルエンザにも対応できるようにしている。玄関にチャイムを設置して、利用者の安全確保に努めている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	年3回防災(災害・火災2回)訓練を実施し、利用者を巻き込んで避難訓練を行っている。地域との協力体制は少し難しい面もあるが、地域が行う訓練は参加している。非常時は敷地内の特養に避難を行い、近隣にある消防学校と連携が図れる様になっている。	年2回、GH単体で昼夜想定にて火災訓練を実施し、全員が無事に庭に避難できた。今年度、近隣で山火事があり、再度防災に関する意識が高まった。ハザードマップ上では、危険区域にあり、情報を共有するようにしている。連絡網は事務所に掲示していて、備蓄は法人一括で管理している。	

自	外		自己評価	外部評価	ш
自己	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.	その	人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシー を損ねない言葉かけや対応をしている	日信を損失する様な言葉掛けは避けて、思いやり のある対応を心掛けている。時には冗談も言いな おこ	呼称の基本は苗字や下の名前に「さん」付けだが、本人の希望の呼び方で呼ぶ場合もある。利用者の気持ちに寄り添った言葉掛けをするようにしている。言葉遣いには十分配慮して、信頼関係を築くようにしている。入室時には、ノックをしてから入るようにしている。	
38			要望に応える様に対応している。選択権を与える 様な声掛けも行い、自己決定出来るようにしてい る。		
39		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	重要な事は職員で決める事はあるが、基本本人の 生活ペースに合わせている。出来るだけ強制せず に、行事やレクリエーション時には選択する様な声 掛けをしている(参加するかしないかなどの声掛 け)。		
40		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	女性利用者の大半は化粧水や乳液を使用される 方が多い為、入浴後に使用して貰う様にしている。 また起床時は髪の整容も行っている。		
41		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	や後片付け(食器洗いや台拭き)は基本利用者にして 貰っている。食事は委託しているが味付けが良い様で、全 利用者「いつも美味しい」と言われ好評で満足されている 様子が伺える。 日1回尽食会を行い利田考と一緒に食事	食事は3食ケイタリングで、厨房で作られたものが施設に届き、ご飯は施設で炊いている。誕生日には、ケーキを作ったり、購入したりして、お祝いをしている。春には満開の桜を堪能しながら、庭でお弁当を食べた。食器洗いやお膳拭き、台拭きを手伝って頂いている。	
42		度べる重や未養ハブンス、ホガ重が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に	食事量の把握は毎食行っている。水分量が少ない利用者には経口補水液やスポーツドリンクを購入し飲用に努めている。献立は管理栄養士が1週間分作成し、厨房で作られたものを提供している。好みの部分や食事形態にも配慮している。		

自	外	項 目	自己評価	外部評価	1 5
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後口腔ケアは実施している。歯科往診を月1度行い、口腔内のケアに努めている。夕食後、義歯を預かり(義歯がある利用者のみ)、入れ歯洗浄剤を毎日使用し清潔に保つ様にしている。		
44	, ,	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けを行い、排泄の自立に向けた支援を行って	トイレは2ヶ所あり、車椅子対応も可能。扉は普通のカーテンだったが、アコーディオンカーテンに変えて、プライバシーにも配慮している。自然排便ができるように、食事や運動に気を配り、できる限り薬に頼らない支援をしている。現在、ポータブルトイレを使用している方はいない。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	毎日午前中に体操を行っている。また、天候や気温が良い時は散歩を行っている。牛乳はコーヒーに混ぜて毎日飲食して貰っている。便秘が続く様な時は下剤も使用し排便を促している(3日目に服用)。		
46		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人入浴を希望される利用者は、状況に合わせながら入浴をして貰っている。(常に声掛けを行い安否確認はしている)。時間帯で嫌がられる利用者も居られる為時間に配慮した支援を行っている。入浴を好まれない利用者に関しては希望に添った回数で行っている。基本週6回入浴が出来る様にしている。	個人により週2~6回の提供していて、浴槽に浸かれる方は8名いる。入浴を拒否される方へは、歌を歌いながら脱衣室へ連れて行ったり、キューピー人形を持って行ったりして対応している。同性	
47		援している	就寝時間は決めずに各々が睡眠しやすい環境にしている。また起床が遅い利用者に対しても配慮をしながら起床して貰っている(他利用者と違う時間に起床されている)。日中の休息は本人の希望に添う様にしている。		
48		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	毎食後、確実に服用出来る様に服薬介助を行っている。夕食後夜勤者が翌日の薬準備をして2名(遅出者)で間違いが無いか確認作業をしている。薬が変化した場合は、通院ノートや申し送りノートを活用し、全職員が把握出来る様にしている。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	ш
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)		生活リハビリ(家事仕事など)を通じて役割分担を図り、生き甲斐や遣り甲斐を持って貰う様にしている。一人一人の嗜好に合わせている。編み物やドライブ外出など楽しみ事を増やして気分転換が図れる様にしている。	員が笑顔で実施している様子が窺えた。食器洗	
50			全体での外出は月1回は行える様にしている。行きたい場所などの希望を聞き、要望がある場合は応	ドライブ表を作成して、どの利用者がいつ出掛けたのかがわかるように工夫している。個別ドライブも定期的に実施している。海、防府天満宮、秋吉台、宇部空港でバラを堪能できた。気候が良い日には、ベンチに座り歌を歌っての日向ぼっこ。庭の畑で採れた野菜が食卓を彩っている。	
51		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を 所持したり使えるように支援している	基本、職員が希望する物を購入する様にしているが、お金を管理出来る利用者には本人に所持して貰い、何か買いたい物の要求がある場合は職員と一緒にお店に行き、購入して貰う様に支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話連絡の希望があれば随時行っている。職員の 都合で家族(または知人)に連絡した際も家族に伝 えて利用者に出て貰う様に配慮している。		
53			毎月自作カレンダーを利用者と共に作成している。終わった物は廊下などに掲載し、常に作品が見れる状態にしている。音・光・色などは特変問題無いが、西側の棟に居室がある為(5部屋)、夕方になると(夏場)西日が強まるのでカーテンを早めに閉める等の配慮をしている。	壁面には、レクリエーション担当職員と利用者が作ったカレンダーや季節の作品が飾られている。年2回、運動会を開催して、パン食い競争や叩いて被ってジャンケンポンをして盛り上がっていた。好きな歌を口ずさみ、常に笑いが絶えない様子が垣間見れた。朝と夕の2回、窓を開けて換気も行っている。	
54		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	共用空間で独りになるスペースは確保していない。気の合った者同士になる様に席替えは行っている(トラブル防止の為)。		

自	外	百 日	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	自宅で使い慣れた物や好みの物を家族にお願いして持参して貰い、家庭環境に近い形の部屋作りを行っている。家族の写真や孫の写真を飾っている部屋もあり。	入り口は花の名前のネームプレートが掲げられている。エアコン、クローゼット(タンス)が備え付けで、全居室が畳の部屋となっている。塗り絵が好きな方の部屋は、たくさんの作品があり、大きなぬいぐるみが飾られている居室もあった。家族の遺影を飾っている方もいる。換気扇や窓を開けて、新鮮な空気を取り入れている。	
56		と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	建物が古い為、全てバリアフリーになっていない。 廊下と居室の間に段差があり、また食堂の扉部分 にも段差がある為、スロープを設置している。声掛 けなどで転倒防止を図っている。すり足歩行になら ない様にも工夫している。浴室のみ段差がある。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

63 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:29)

	項 目	↓該	取り組 当するもの	l み の 成 果)にO印		項 目		取 り 組 み の 成 果 áするものに〇印
57		0	1. ほぼá	全ての利用者の		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	0	1. ほぼ全ての家族と
	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)		2. 利用者	きの2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者	≦の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとん	ど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	0	1. 毎日ま	ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に	こ1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまに	- ある				3. たまに
			4. ほとん	どない			0	4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	0	1. ほぼá	全ての利用者が		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		1. 大いに増えている
			2. 利用者	きの2/3くらいが			0	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者	きの1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとん	どいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	0	1. ほぼá	全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている	0	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者	きの2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者	きの1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとん	どいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	0	1. ほぼ≦	全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者	きの2/3くらいが			0	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者	者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとん	どいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごせている (参考項目:31,32)	0	1. ほぼá	全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者	当の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者	きの1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとん	どいない				4. ほとんどできていない
		0	1. ほぼá	全ての利用者が		•		•
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔		2. 利用者	当の2/3くらいが				